

2020 年度自己評価及び関係者評価

1. 教育理念・教育目標

<p>教育理念</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神を第一として共に生きる真実の人間形成 ・ 聖句『光の子として歩みなさい』（エフェソの信徒への手紙 5 章 8 節） <p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神さまに愛され守られていることを知る ・ 自分らしくのびのびと表現する ・ 自分のこともみんなのことも大切に思う
--

2. 2020 年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ① キリスト教の精神に基づき、子どもも保育者も共に歩み育ちあう事ができるよう、願いと祈りを持って保育を行う。 ② 個々の子どもたちの成長の課題について保育者が共通理解を持って関わるのできる体制を整える。 ③ 家庭とのより一層の連携と相互理解を深めるための方策を実現する。 ④ 時代や状況の変化に適切に対応し、行政からの要望・地域との連携など広い視野に立った運営を行う。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

区分	評価項目・内容		取り組み状況
1 教育課程・指導計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の建学精神や教育目標を理解している。 ・ 幼稚園教育要領を理解し、子どもの実態に即した教育課程の編成を行っている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育理念に基づく『理想とする子ども像』について会議を重ねて話し合い、教育目標を具体的な子ども像が思い描ける表現にした。 ・ 保育者も子どもも共に聖書の言葉に親しみ、教育理念が生かされるよう、合同礼拝の説教を牧師と共に保育者も担当した。 ・ 2020 年度の重点目標を具体的に定めて教育課程を編成したが、休業期間があった為、見直しながら運用した。

<p>2 保育内容・子どもへの対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の子どもたちの成長の課題について保育者間で共通理解をもち、子どもの思いを受け止めながら丁寧に関わる。 ・ 健康で安全な保育のために必要な生活習慣を、子どもと共に確認しながら指導していく。 ・ 子どもの思いや興味・関心を共有して、遊びを深めていく。 ・ 他のクラスの子ともと関われるように遊びの形態などを工夫する。 ・ 特別な支援を要する子どもに対して職員全員が理解し、専門機関とも連携して対応している。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラス毎の保育会議を毎月行い、クラス担任と補助の保育者とが丁寧に保育を振り返り、個々の課題について話し合った。 ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に行政からの指導や情報に基づき、可能な限りの対策を取りながら保育を行った。4月～5月にかけての休業要請に従いつつも、保育を必要とする家庭のための預かり保育を実施した。休業要請期間中の5月はオンライン幼稚園を実施し、家庭や子どもとの繋がりを絶やさないことに集中した。 ・ 専門機関と双方向に訪問・連絡を行い、理解と課題の共有に努めた。
<p>3 教師としての資質・能力・研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育や子どもの様子などについて保護者にわかりやすく伝え、信頼を得るように努める。 ・ 幼稚園教諭としての専門知識や技能を高めるために積極的に研修会に参加する。 ・ 職員間の業務分担を適切に行い、個人の能力を活かしながら協力体制を強化する。 ・ 健康維持に努めるとともに、仕事上の問題や悩みは早期に報告、相談して解決する。 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の保護者との関りにおいて、明朗な挨拶、明るい表情、わかりやすい表現での伝達を心掛けた。 ・ コロナ禍により保護者会の開催ができなかったため YouTube で保育の様子や保育に必要な事柄の説明を行うなど新しい試みを取り入れた。 ・ 研修会の開催が少ない中で、積極的にオンライン研修に参加した。集合型の研修ではないことで非常勤教諭も参加し易いという利点もあった。

<p>4 保護者への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共に子どもの成長を喜び合うことができるように理解を深める対応を行う。 ・「子育て」についての諸々の悩みや相談に心を開いて対応できるように、電話や連絡帳、家庭訪問、懇談会、保護者会等を充実させる。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と問題を共有するためには、日頃からのコミュニケーションが大切であると改めて痛感している。 ・コロナ禍により、家庭訪問を個人懇談に変更し、6月と10月の2回実施した。 ・保護者のサークル活動やクラスでの茶話会等について今年度は実施を見合わせた。 ・保護者の責任で登降園の送り迎えをしてもらうことで直接日々の会話ができることのメリットがある。 ・保護者会の出席が年々減ってきている中で、YouTube やオンライン幼稚園に取り組んだが双方向の関りの難しさを痛感した。
<p>5 安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な安全点検を行うと共に、災害から身を守るために必要な訓練と防災教育を行う。 ・教会堂建築工事開始に伴い必要な対策を講じる。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の避難訓練計画に従い、引き渡し訓練や地震防災訓練アプリの導入など、昨年以上に準備して実行することができた。 ・隣接地で建築工事により、登降園の際の安全が懸念されたが、自家用車乗り入れ禁止に協力してもらい安全が守られている。
<p>6 外部とのかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で幼・少・保が積極的に連携して子どもの成長を見守る。 ・地域に根差す開かれた保育を推し進める。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の自粛や会議の中止が相次ぎ、必要な幼少保の連携ができない状況にある。 ・町内会と連携し近所の公園の清掃活動等を行うことができた。 ・認定こども園への移行についてチラシと住民説明会によってお知らせした。

7 環境に関して	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 新型コロナウイルス感染症対策のために必要な環境を整える。 ▪ 虫などの生き物や植物の成長、季節の変化などに子どもが親しみ生活や遊びに行かせるよう考慮している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 密を避けるために2020年7月に購入した2階の旧教会堂を使用し保育スペースを広げ、消毒や換気の徹底の他、衛生のために有効な備品を購入して対応した。 ▪ ダンゴムシの飼育や泥遊びなど、自然に興味を持って遊びを広げることができた。
7 その他	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 円滑な業務を行うためにICTを活用する。 ▪ 幼保連携型認定こども園への移行に向けて資金計画や運営計画を含め必要な準備を行う。特に認定こども園と移行に向けて必要な保育の学びと共通理解を深める。 ▪ 認定こども園移行に向けた行政手続きを遅滞なく進める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 2020年2月からICTを導入した。3月から相次いだコロナ関連の保護者への連絡をスムーズに行うことができた他、日常業務の負担軽減を図ることができた。 ▪ 幼保連携型認定こども園への移行準備のため理事会を毎月開催し、準備を進めると共に、札幌市との協議に向けて事務作業を進めている。

4. 財務状況

公認会計士監査、監事監査により、適正に運営されていると認められている。

5. 今後取り組むべき課題

- ① 保育の充実のための人材確保と、各人が充実して意欲的に仕事に向かえる職場環境を整える。保育科学生の幼稚園志望が激減している現状を踏まえ、人材確保のための有効な対策を講じることが大きな課題である。
- ② 新型コロナウイルス感染症により予期せぬ事態が連続し、対応に追われることが多かった。組織としての迅速な判断と適切な行動をとることができるよう、体制の強化と訓練が求められている。
- ③ 幼保連携型認定こども園への移行に向けて行うべき様々な業務が予想される。園舎新築の準備、建築中の仮園舎での保育の計画と準備、制度の理解と申請の準備、保護者への説明、人材確保等、様々な作業を円滑に行うために、幼稚園役員と職員とが意思統一を図り、協力して相互に支えあい、意欲をもって前進できる職場環境を整えなければならない。

6. 関係者評価委員会の総合的な評価

結果	評価の理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・園児が教師からの細かい指示を受けなくても、自分で判断し幼児なりに状況に合わせて行動しようとする姿が多く見られ、生活を中心とした保育が丁寧に展開されていることを伺い知ることができる。 ・子どもに寄り添う教師の手の温もりが伝わってくるような優しい対応が随所に見られる。愛されていることを肌で感じながら育つことで、自分も自分以外の人も神さまに愛される大切な存在であるという教育の理念が保育の実践の中に活かされていることがよく理解できる。 ・コロナ禍にあって試行錯誤の中で保育を進めてきたことが理解できた。安全に保育を行う事の難しさだけでなく、様々な社会不安の中で保護者の理解を得ながら対応できたことは、普段からの連携の成果と思われる。 ・保護者間の交流の機会が減少したことでの影響を探り、次年度への改善策を練り、教会幼稚園が持つ温かい雰囲気これから継続できるような対応を期待する。 ・2020年2月からのICT導入が、新型コロナウイルス感染症拡大の時期に間に合い、作業負担を大幅に軽減できたことは大変に良かった。これからも社会の動きを捉え、適切に取捨選択しながら、業務を改善する意欲を持って取り組み、職員が働きやすい環境を作っていって欲しいと期待する。但し、新しいものを取り入れることで個人情報の保護などに破れが出ないよう十分に配慮しながら業務改善を推し進めて欲しい。 ・幼保連携型認定こども園への移行を円滑に進めていけるように、保育に対する職員間の共通理解だけでなく、理事会・評議員会とも想いを一致させ、教育理念に基づいた夢や理想を掲げ、難しい問題への解決に当たって欲しい。子ども達一人ひとりが豊かに育つと共に、職員も育ち合う関係の中で、新しい施設の実現に向けて、関係者が一丸となって前進して行けるよう、祈りを持って進んで欲しいと願う。 ・建設工事中の安全や近隣地域への配慮を大切に、地域に根差した保育施設としての歩みをこれからも継続して欲しい。

A：良い B：概ね良い C：十分ではない D：改善の必要が大いにある